

開設講習名	【選択】本当はとでもわかりにくい物理学 ～生徒たちを正しい理解へ導くために～		講師	荻原 千聡	
講習会場	山口大学常盤キャンパス		会場所在地	山口県宇部市	
開設日	平成 29 年 6 月 25 日		時間数	6 時間	受講予定人数 50 人
受講者募集期間	平成 29 年 4 月 7 日～平成 29 年 4 月 15 日		履修認定時期	平成 29 年 8 月 10 日まで	
履修認定対象職種	教諭	主な受講対象者	中学校・高等学校理科教諭		
受講料等総額	6,000 円	(うち受講料以外の経費)			
<p><b>【到達目標】</b></p> <p>自然科学、特に物理学を学ぶ生徒にしばしば誤解が生じる原因の一つとして、我々の暮らしている環境に特化した人のもつ感覚があげられることを理解し、必要に応じて生徒指導に役立てることができる。</p>					
<p><b>【講習の概要】</b></p> <p>担当講師が高校、大学在学中に物理学を学習した際にとまどった部分や、大学での講義を通して気づいた誤解のおこりがちな現象のなかから、特に力学と熱力学に関するものを選び、これらについての考察を通して、人のもつ感覚の性質、日常生活におけるものの見方に起因する誤解について再認識する。</p> <p>力学では、以下の内容を講述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な概念である力に関して、本講習の理解に必要なことを確認。</li> <li>・無重力状態と呼ばれる状態についての考察を通じて、我々は力の存在をどのようにして知るのが確認する。</li> </ul> <p>熱力学では、以下の内容を講述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内部エネルギーとエンタルピーについての解説とともに、日常的にいう「熱を蓄える」は熱力学ではどう表現されるかを確認する。</li> <li>・気体、液体、固体、臨界点等、相図など、物質の状態を表すのに用いられる概念について確認。</li> <li>・臨界点を超える圧力、温度での物質の例を少しとりあげ、我々は何に基づいて気体と液体を区別するかを考察する。</li> </ul>					
<p><b>【評価の方法・評価基準】</b></p> <p>評価の方法：筆記試験</p> <p>評価基準：講義で提起された問題に対する一定の関心が認められること。</p>					
<p><b>【テキスト・参考文献】</b></p> <p>事前にテキスト(資料)を配布予定。</p>					
<p><b>【受講者への伝達事項】</b></p> <p>タイトルから想像される理解困難な内容ではなく、複雑な計算も使いません。</p>					